

令和3年度 学校評価 パワーアッププラン

学校名	丹波市立黒井小学校
-----	-----------

○目標・方針

<p>中期的な学校運営の目標・方針</p> <p>地域に誇りを持ち 未来を切り拓く 黒井っ子の育成 ～自信を持って人生を切り拓いていくための「学力」と「人間力」を育成し、 自身の将来を豊かにするための教養の礎を築く～</p> <p>[自立] なにごとも自分で考えて、行動のできる子 [協働] 人のためになることを、すすんでできる子 [創造] 大きな夢を持ち、粘り強くがんばる子</p>	<p>本年度の重点目標</p> <p>①言語活用能力向上のための授業改善と学習の個別最適化、家庭学習との接続。 ②不登校や問題行動等の未然防止に向けた情報共有と事案に対する早期発見、早期対応。 ③健やかな体と体力の向上と防災・安全教育、感染症対策の徹底による安全な学校 ④CSの推進による協働活動の充実と地域の教育資源の活用をすすめることで家庭・学校・地域が一体となり子どもたちの学力向上を目指す。</p>
--	---

○自己評価

○学校関係者評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み	自己評価の各観点に対する評価
学校運営	開かれた学校づくり	④地域教育資源活用 ④学校運営協議会の推進 ①学力や学習状況等の公表	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の持つ教育資源を学校運営協議会との協働により発掘・活用する。</li> <li>学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を推進し、学校・地域・家庭の「子どもたちの学びの充実」にむけた協働活動を充実させる。</li> <li>学校のもつ情報を積極的に発信する。（ホームページ、メール、各種配付物等）</li> <li>学力学習状況調査結果や各種調査結果、保護者アンケートの結果、学校評価の結果を公表し、説明責任を果たす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報公開についてホームページの閲覧回数が37,189回、更新回数が144回の活用ができています。内容も学校だよりを中心に子どもたちや学校の様子がよく分かる。学校運営協議会等についてもその取組を掲載したい。</li> </ul>
	生徒指導の充実	④地域・家庭との連携による安心して通える学校づくり ②不登校・不登校傾向の未然防止の取組 ②いじめの未然防止に向けた取組 ②共感的な児童理解と情報の共有	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校傾向の児童への対応については、担当教員を中心に、養護教諭、担任や関係機関等と連携し、本人や保護者の思いを大切にしながら投稿に向けた支援を進める。</li> <li>いじめアンケート（6月・11月・2月）や児童の個別面談などを通し共感的な理解を深めるとともに、いじめ問題の早期発見につなげる。</li> <li>要支援児童に対しては、チームでの早期対応を心がける。</li> <li>学校運営協議会の進める「挨拶運動」を軸に、児童会の「朝のあいさつ活動」も主体的に進めさせる。</li> <li>日々の生活記録等をもとに児童一人ひとりの状況を共通理解し、家庭とも連携しながら支援体制の充実を図る。</li> <li>情報活用モラル教育の充実に向けて、黒井小学校 PTA とも連携し、学年に応じたインターネット等の利用にかかる情報モラル教育に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣づくりについては、家庭との連携が不可欠である。保護者の意識を高めていくためにも粘り強い取組を今後もお願いしたい。</li> <li>不登校などの要支援児童の状況を全職員で細やかに把握されようとしているのが分かった。いじめ問題等にもついても未然防止の観点で取り組まれている点が評価できる。安心して安全して過ごせる学校を、今後も目指していただきたい。</li> </ul>
教育課程	創意と活気ある教育課程の実施	④地域教育資源を活用した教育の推進 ④たんばふるさと学の推進 ①体験的な学びの充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒井地域の特色を活かした学習内容を創り、ゲストティーチャーやスクールボランティアを活用した学びの充実に努め、地域の教育資源の活用を図る。</li> <li>キャリア教育の充実をすすめるうえで「たんばふるさと学」を軸に総合的な学習の時間や生活科等を活用し、教科横断的に推進する。</li> <li>感染症対策を徹底しながら実施可能な体験活動を教育課程に取り入れる。</li> <li>自分たちの住んでいる地域の持つ価値に気づかせ、先人の偉大さや自然の豊かさを学び、ふるさと黒井への愛着と誇りを育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然学校やたんばふるさと学などにおいて、今年度も一定の制約があったと考える。総合的な学習の時間や生活科、クラブ活動などにおいて地域の関わりは不可欠であると考えている。黒井地域ならではの学習が充実するように、多くの地域ボランティアの方に学校の取組に参画してもらえるようにして頂きたい。</li> </ul>
	学習指導の充実	①対話的な学びの充実にむけた授業改善の取組 ①個別最適化な学びにむけた支援の充実 ①情報活用能力の育成に向けた取組 ①デジタル教材を活用した外国語指導	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の考えを聞き、自分の考えを深める国語科の授業研究の実施により、「主体的・対話的・深い学び」を目指す。</li> <li>個別の学習課題を明確化することにより、家庭学習や朝のスキルタイムを中心に基礎的・基本的な内容を繰り返し学習させる。</li> <li>児童の情報活用能力の育成に向けて、タブレットPCを活用し、自ら課題を持ち、調べて、まとめて発表するなどの力を育成する。</li> <li>児童の良い取組や課題解決に向けた経過を認め自己肯定感を育み、学び続ける意欲を育てる。</li> <li>「家庭学習の手引き」や「週末プリント」を活用して家庭学習との接続を図り、学習課題に正対し、自ら進んで学び続ける子を目指す。</li> <li>本年度配付されたデジタル教科書を活用し、外国語指導助手とも連携し、外国語および外国語活動の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話的な学びを大切にされた取組を実施されている点を年度当初に説明された。発達段階に応じて取り組まれてきたことがよく分かった。</li> <li>個別の学習課題を大切にしながらそれと向き合わせることで主体性を身につけさせようとしていることが理解出来た。</li> <li>ICTの活用については、職員研修を中心に、これからの子どもたちに必要な力を身につけさせようとしている。</li> </ul>
課題教育	共生社会の中で豊かな心を持ち、たくましく生きる力の育成	③新型コロナウイルス感染症にかかる感染症対策の徹底 ④家庭と連携した人権教育の実施 ④関係機関等との連携・交流の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子で学ぶ情報モラル教育や家庭対話（人権学習）の取組、教育相談日の設定などを通じて、家庭と共に児童の人権意識を醸成する。</li> <li>登校から下校までの児童の感染症対策を徹底し、感染症が不安で登校できない児童を減らし、充実した教育活動を推進する。</li> <li>認定こども園かすが花の子園や春日中学校、県立氷上高等学校の交流活動等により、相手を思いやる心を養う。</li> <li>縦割り班活動や多様な体験活動により主体性を育む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒井小学校 PTA と連携した情報モラル教育の取組が評価できる。親子で共に学ぶことでの成果を期待したい。</li> <li>感染症にかかる人権問題は特に大切だと考える。学校としての取組をさらにすすめてもらいたい。</li> <li>交流活動も可能な範囲で実施されている。地域の特性を活かした取組を充実させてもらいたい。</li> </ul>
	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実	①個別の教育支援計画と個別の指導計画に基づく支援 ④保護者への理解啓発活動の充実 ④関係機関と連携した支援体制の構築	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の取組む特別支援教育について、児童と保護者に啓発を行う。</li> <li>要支援児童一人ひとりの実態を把握し、教職員全体での支援体制のあり方や児童の変容を共通理解し、個に応じた支援を充実させる。</li> <li>認定こども園かすが花の子園や他園と連携し、早期からの相談・支援体制の充実を図る。</li> <li>基礎的環境整備と合理的配慮に基づく教育支援計画（サポートファイル）や個別の指導計画を作成し、学校職員と保護者、関係機関等で共通理解を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援学級の理解啓発に向けての取組が理解できた。共生社会づくりに向けてさらに取組をすすめてもらいたい。</li> <li>特別支援学級において児童の特性に合わせた支援が実施されている点が理解できた。通級指導など特別支援学級に在籍していない児童の支援についても理解できた。</li> </ul>

※領域（3領域） 学校運営、教育課程、課題教育

※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校運営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設整備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善

自己評価の実施方法についての評価

・教職員の自己評価や児童・保護者アンケートにより黒井小学校の課題を把握しその解決に向けて、重点目標を定め、その取組と成果と課題がどのような状況だったかが評価でよく分かった。

この評価方法を今後も継続し、学校教育目標の達成に向けた取組をすすめてもらいたい。

学校関係者評価のまとめ

<p>学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行する中、全教職員で協働することで、子どもたちの学びを前進させてきたと考える。特に、言語活用能力向上のための授業改善やタブレット PC による学習の個別最適化、また家庭学習との接続である。不登校・いじめ等の未然防止についても情報を共有し早期発見、早期対応に努めた。感染症対策を徹底し安全で安心して通える学校を目指し、今後も学校運営協議会と協働しながら家庭・学校・地域が一体となり、子どもたちの学力向上に努めたい。</p> <p>令和4年 3月 2日</p> <p>学校名 丹波市立黒井小学校 校長名 谷口千尋</p>	<p>・安全で安心して通える学校を感染症対策や生徒指導を中心として、様々なアプローチで実現して欲しい。</p> <p>・学力向上に向けて、個別の学習課題を大切にしていきたい。児童一人ひとりの教育的ニーズを把握し、授業を改善していくことを今後もすすめて欲しい。</p> <p>・学校運営協議会の取組をさらに推進し、地域や保護者との連携を強化してもらいたい。</p>
---	---

